

松江工業高等専門学校

## 同窓会 会報

第7号

2017.8.1発行

同窓会事務局

〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内  
 TEL: 0852-36-5111 FAX: 0852-36-5119 E-mail: m-soumu@matsue-ct.jp  
<http://www2.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

## 同窓会の役割

松江工業高等専門学校同窓会副会長 小山 厚 (3期・生産機械)



松江高専の開校は、戦後経済の高度成長に向かい東京オリンピックの開催や東海道新幹線が開通した1964年でした。開校以来54年が過ぎ今年3月には第49期生が卒業し、同窓会員総数は7,600人をを超えるほどになりました。同窓会も年を重ね2年後には創立

50周年を迎えます。本会創立の節目には、記念植樹をはじめ、学校へのマイクロバスや校旗の寄贈などを行いましたが、50周年事業についての検討を本格的に始めなければならない時期に来ています。

同窓会の運営は、卒業時にいただく会費を主な財源としており、一般会計総額は約300万円で、会報の発行や同窓会ホームページの管理、全国大会出場等への助成、また近年は会員相互の連携を促す卒業生交流フォーラムなどが主な事業です。この交流フォーラムは、一昨年に初めて学校等と共催で東京、大阪、広島で開催し、昨年は同窓会の関東支部があ

ることから東京において開催しました。特定な学科による地域的な集まりはあるようですが、近年設立した関東支部のように、他の地域でもそうした動きが出れば嬉しく思います。

同窓会の事業等を決定するのは理事会と総会ですが、理事会は各科代表による22名(今年度)で構成し、総会は各クラスから1名ずつ選出された代議員(主に地元在住)による代議制をとっています。

ここで代議員の皆さんに是非お願いしたいのは、クラス会の開催などにより会員の住所把握に努めていただきたいことです。住所確認のためでもある会報の送付率は、現在70%程度に留まっているからです。50周年を迎えるにあたって、今一度会員名簿の整備を行い、学校との連携を図りながら、会員相互の情報共有を一層図りたいと思います。

同窓会が会員の皆様にとって、より身近に必要な役割を果たすよう皆様の声に耳を傾け、今後の運営に努めていきたいと思ひます。

## ご挨拶

松江工業高等専門学校 校長 平山 けい



松江高専同窓会会員の皆様、はじめまして。本年度4月1日より松江高専校長を拝命いたしております平山けいと申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。赴任当初、松江高専と関わりのある企業や自治体の皆様にご挨拶に伺った際に必ず話題にあがることといえば、そこに勤められておられる本

校卒業生の皆様の技術力・人間力の高さです。松江高専に対する地域の皆様の大きな期待をととも強く感じております。また、県内外におられる卒業生にお会いするたびに私が感じますことは、皆様が母校松江高専を非常に大事にされているという思いです。伝統と実績のある松江高専ではありますが、国立高専の設立から50年余りを経て、社会から求められて

いる高専教育に対する役割は大きく変化しています。さらに、平成31年度より実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関として専門職大学や専門職短期大学の設置が始まります。高専には否応なしに教育改革の波が押し寄せてきています。松江高専の良さと強みを維持しつつ社会の要求にこたえる形での新たな教育改革を現在教職員一丸となって積極的に推進しています。また、少子化、若者の都会への流出防止等地元島根県に寄り添った形でのキャリア支援教育の在り方・地域貢献や地域企業との更なる連携強化も模索中です。このような現状の中、本校を愛する同窓会の皆様の存在や後押しは非常に大きく有り難く、今後も母校のさらなる発展と後輩学生達へのこれまで以上の温かなご支援とご協力をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

## 昨年度交流フェスタの報告と関東同窓会支部の設立について

松江高専関東同窓会支部(関東直野会) 会長 境 真樹 (10期・電子制御)



### ○交流フェスタ

平成28年11月19日(ロボコン全国大会前日)に約100名の卒業生(関係者を含む)が参加しました。一昨年に、東京・大阪・広島にて交流フェスタを開催し、昨年は東京でその継続事業として関東直野会を中心に交流フェスタを開催しました。

関東直野会の発足式と同時開催となりましたが、会としては、情報交換を含め先輩・後輩の垣根を越えて、さまざまな交流を図ることが出来ました。

本年も、関東で交流フェスタを開催(別紙参照)しますので、ご参加をお願い致します。

### ○関東支部(関東直野会)の設立について

私は、島根県の観光大使である遣島使、島根県人会の理事、松江観光大使など拝命しております。現在ソニー生命保険(株)にて営業をしており、島根県出身の経営者の方にお逢いすることが多いのですが、出身高校の話を知ると、関東で同窓会が存在し、縦と横の繋がりがありました。

残念ながら松江高専はありませんでした。約3年前に同窓会本部に提案書を提出し、それがようやく去年、正式な会になりました。

高専生は本当に優秀です。ただ、若干コミュニケーションスキルが乏しいのが現実です。なので、先輩は豊富な経験を、後輩はアグレッシブさをそれぞれ生かしながら相互研鑽を。なによりも自分自身のスキルアップのため、コミュニティの活性化を目指していけたらよいと思っております。

最後に、現在関東直野会は偶然にもご縁があった、以下のメンバーで運営しております。信頼できる最高のメンバーです！拡大したいので幹事募集中です！ご連絡ください！

堀江 智：機械(10期) 浅野 智之：情報(38期)  
内田 祐介：情報(41期) 内田 譲大：情報(44期)  
高尾 菜央子：電子制御(45期)



## 会員の声

2名の会員の皆様に、松江高専に対する想いを綴っていただきました。



元航空管制官 今若 善紀 (6期・電気)

私は昭和49年3月に電気工学科を卒業しました。同期は次々と就職内定を得ていく中、電気関係の仕事に就くことに迷いがあった私は、校内に貼ってあった航空管制官募集ポスターで知った航空管制官採用試験を受けました。航空管制官の採用通知を受け取ったのは卒業年になってからでしたから、年が明けても就職先が決まっていな

かった私を同期は心配してくれたことを思い出します。研修所での基礎研修、配属された羽田空港での実地訓練の後、航空管制官の免許証を手にして羽田空港の管制塔やレーダー室で勤務しました。航空管制官の仕事は世界中の空港で同じ基準で行われているからでしょうか、外国の航空管制官とは連帯感を感じます。航空管制官の世界団体の会議で共通の関心事について意見交換する機会に恵まれました。航空行政に関心を持ち異動した国土交通省航空局では、GPSを利用した航空機の飛行方式や衛星データリンクを使った新しい管制方式の策定に携わりました。

その後、国際民間航空機関(International Civil Aviation Organization)の採用試験に合格し国連職員になり、アジア太平洋地域事務所(在バンコク)に転職しました。ICAOは、航空機の運航や航空管制方式に関する国際基準を策定し、各国が国際基準に準拠して国の法律や規則を制定することを促進するとともに、国際基準の国の遵守を監査する国連の専門機関です。私は特にアジア太平洋地域の国が国際基準に基づいて国内規則を制定して航空機の運航や航空施設の整備が共通の基準で提供できるように国を支援する事務所の業務を統括しました。通算9年半のICAOでの勤務を終え、今は日本の航空会社で民間航空の発展に寄与する仕事に就いています。

専攻した電気関係を仕事にする選択はしませんでしたでしたが電気工作は好きです。在学時に所属した無線部で始めた自作アンプのオーディオは今も続けています。松江高専の同窓とは交流が続いていて、機会あるごとに開かれる同窓会を楽しみにしています。

後輩諸君が幅広い場面で活躍されることを願っています。



中国電力株式会社 廣瀬 奈緒子 (7期・情報)

同窓生の皆さまには、それぞれの分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。私が高専を卒業し、十数年が経ちます。就職の際、在学中に学んだ分野とは違う会社を選びましたが、現在はその会社で通信システム開発寄りの業務という母校で学んだ分野に近い業務に携わっており、一度携わった事とはご縁があるものだなと感じてお

ります。

ご縁といえば、先日、高知県に行く機会があり、桂浜を訪れたことです。海沿いの展望台から見える海と松の景色が見覚えがあるなと感じました。それもそのはず、昔、高専在学中に部活動の遠征の際、訪れたことがあったからです。

私は、高専在学中、弓道部に所属していました。放課後は毎日練習、土日・夏季休暇も練習、試合、合宿など、もしかしたら、在学中は弓道部員でいる時間が一番長かったのではないかと、思うくらい部活中心でした。高知県が舞台となったのは、私が5年生の時に出場した西日本大会でした。最後の西日本大会ということもあり、練習を重ね、気合いを入れて大会に挑みましたが、結果は予選敗退。その時の悔しさと、一方で集大成となる大会が終わった達成感・安堵感が入り混じった気持ちを胸に、試合後に立ち寄ったのが桂浜、そしてその展望台だったのです。

あれから十数年経ち同じ景色を見たとき、あの頃の気持ちがよみがえると同時に、懐かしさと嬉しさを感じ、何とも言えないとても温かい気持ちになりました。

社会人になり、色々な経験をしてきましたが、悔しさを感じられるくらい物事に打ち込み達成感を得るといった生涯の中でも貴重な経験ができた高専生活は、社会人となった今でも私の財産になっています。

最後になりましたが、今回、こうして同窓会会報に寄稿する機会を頂けたことに感謝するとともに、松江高専のますますのご発展と皆さまのご活躍を祈念しております。

## 平成28年度 定年退職教員 紹介

# 退

昨年度をもって、井上明先生、亀谷均先生が松江高専を定年退職されました。2名の先生にお言葉を寄せていただきました。

### 5年間の高専生活でした

前校長 井上 明

私は、2012年(平成24年)4月に松江高専に校長として着任し、5年間務めた後、本年3月に退任いたしました。校長として様々な人々と出会う中で日頃感じていたことは、この地域の皆様方の誠実なお人柄です。松江高専の学生たちをみても、概して、求められている課題に対し素直に取り組んでいこうという姿勢が見られました。その成果として、勉学面、課外活動面、精神面、行動面など様々な面で、それぞれが大きく成長し、結果を出していたものと思います。このことは、松江高専の教育力の高さを示していることでもあり、学校を預かる者としては、頼もしく、また誇らしくもありました。

また、松江高専は産業界や地域社会と色々な側面で関わりが深く、特にその人材育成力や研究力・技術力について、各方面から大きな期待が寄せられていることを実感しておりました。

以上のような松江高専の特質を新しい形で発展させ、様々な状況の変化に的確に対応して進化させていくことが私の任務でしたが、松江高専がこれまでに一定の評価を得ていることは、一方で、在籍されてきた先人の方々から受け継がれてきた財産でもあります。卒業生・修了生の各界での活躍の大きさが、松江高専への期待の高さに直結していることを、機会あるごとに感じておりました。

私の在任中、この松江高専が創立50周年を迎えることになり、記念式典及び様々な記念事業を実施する機会に恵まれたことは、誠に幸運なことでした。その際には、関係する多くの方々から種々のご協力を賜りましたが、特に同窓生の皆様方からは、あたたかく母校に心をお寄せ頂き、ご支援とともに各場面において盛り上げて頂いたことについて、嬉しく、また有難い限りでした。

このたびは、5年前私が着任すると同時に本科に入学した学生たちが卒業していく姿を見届け、自らも校長を退くことになりました。高専本科生と同様5年間で松江高専を卒業することに感慨を覚えます。

明るくまじめで学校のことが好きな意欲ある学生たち、改善志向の高さと結束力に特長のある教職員、きれいに使われている校舎、愛校心に溢れ各界で活躍するOB・OG、学校を信頼し支援頂く保護者の皆様、松江高専への期待とともに種々協力頂いている地域産業界・地域自治体・地域教育機関・地域社会・諸団体……、全ての人たちに感謝です。同窓会の皆様へは、これまでのお礼とともに今後の発展を祈念いたします。

これからは松江高専を応援する立場に回ります。松江高専は、城下町の風景とともに、私にとって間違いなく忘れられない存在であり続けます。どうもありがとうございました。



### 思い出深い卒業研究

電子制御工学科 亀谷 均

松江高専機械工学科6期卒業の亀谷と申します。高専卒業後、大学とメーカー勤めを経て、平成6年に母校の電子制御工学に着任いたしました。世の中にないものを作ることを研究姿勢として22年間松江高専で研究開発を行ってまいりました。気が付けば卒業研究のテーマ数が80件、卒研生受け入れ人数が94名(内留学生3名)に達していました。この中で特に思い入れがある研究開発について2件紹介させていただきます。

まず、ダムの水質改善システム<sup>1)</sup>について。多くのダムで春から夏にかけて、ダムの湖底付近の水は酸素の非常に少ない貧酸素状態から、酸素を含まない無酸素状態に陥ります。無酸素状態では、生物の死滅は言うまでもなく、湖底のヘドロから重金属などが析出してきます。析出した重金属が万が一放水されると、重金属の濃度によっては問題になります。この問題解決の為に、全自動で溶存酸素量を改善するシステムの開発依頼を地元企業から受けました。短期間で開発が要求されたことから、松江高専6名、松江高専の卒業生が起業された会社から2名、依頼元の技術者2名で構成されるメンバーで開発を進めました。その結果、私としては異例の速さ、約1.5年、で開発を終えることができました。システムは主に制御システム、水中で酸素を水に溶解する装置、ダム湖の水質データを自動で取得する観測船から構成され、制御コンピュータからの指令に基づき目標となる溶存酸素濃度に水質を改善するものです。開発した装置で湖底が無酸素状態に陥った時点から概ね1ヶ月ほどで湖底から鉛直方向に9m、水平方向に約1kmの広範囲に渡る領域の溶存酸素量の改善を自動で達成することができました。1人ではなく大勢のご協力を得て完成にこぎつけた大作、寸法の大きな作品、です。なお、この開発ではヘドロ境界面検出器<sup>2)</sup>なる妙な検出器も開発しています。

しじみ漁師さんが手作業で行われるしじみの良否選別を自動化する装置の開発<sup>3)</sup>も行いました。ある時、企業からしじみの良否選別が自動化できないかというご相談を受け、軽はずみにも「できるんじゃないですか」と答えてしまったことが、10年越しの長く重い研究に陥った事のきっかけでした。現在、漁師さんによる良否選別はすべて手作業で行われており、コンクリートの上にシジミを転がし、その時に発生する音で良否選別が行われています。問題はこの作業が同じ体勢で長時間に及ぶことから体への負担が大きいこと、また、バクダンと呼ばれる殻の中に泥が入った貝をまれに良品と誤選別することです。

この作業を機械化するに当たり、1年で良い貝と悪い貝(泥貝・空貝)の赤外線を利用した良否判別原理を確立し、その後1年でその判別原理を実際の良否選別検出器として作り上げました。ここまでは大変順調でしたが、その後が泥沼化してしまいました。欲を出し、センサー屋が機械作りをはじめたものですからうまく行きません。開発が長期化しいつしか6種類の良否選別装置を作っていました。その間10年の年月が流れてしまいました。現在、やっと毎秒3個の検査能力を持つ装置開発<sup>4)</sup>を終えたところで、メーカーでの製品化を期待しているところです。



1)、2)、3)については、機械学会のサイトで無料で論文の閲覧可能。探し方: googleで機械学会論文集 → 日本機械学会論文集を選択し → 検索欄に亀谷均を入力 → 4)については動画がありますので是非ご覧下さい。検索キーワード: 産経新聞とシジミ選別装置。写真は観測船と松江高専の開発メンバー。



## 部活動の今

### 吹奏楽部

私たち吹奏楽部は現在新入部員13名を加えた、総勢47名で活動しています。近年は吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストの他に、地域活動にも力を加えより一層勢いを増して活動しています。

2017年3月の第25回記念定期演奏会では、歴代のOB・OGも含めたステージとなりました。OB・OGの壮大なサウンドと共に演奏することで今後の目標や意気込みが定まったように感じます。演奏以外でもステージの用意や衣装作り、パンフレットの広告の募集など自分たちで用意することで仕事に対するの責任感を持つことができました。また、お忙しい中集まっていたOB・OGの方々やコーチの多大なるご協力のおかげで好評を得ることができました。

2015年から、なんと三年連続で10人以上の新メンバーを加えることに成功しました。少し部屋が窮屈に感じるの嬉しい悲鳴でしょうか。人数が増えたことによってより一層演奏に深みが増しました。今の人数では大編成の演奏も可能なので演奏のレパートリーも増えました。次の定期演奏会が待ち遠しいです。

2016年は松江市内の地域演奏に積極的に参加しました。玉造温泉夏の一大イベント「たまステージ」やペンギンでおなじみのフォーゲルパークのクリスマスイベントに参加させていただきました。SNSやポスター、テレビ出演などを経て知名度アップにも力を



注ぎ、学校外にも活動範囲を広げることで経験を積むことができた年となりました。

日常での練習ではプレスビルダーの導入により以前よりもスタミナが増えました。プレスビルダーを使う練習では足を上げたり、ピンポン玉を重くするなど自主的にメニューを考えることによって楽器を使う練習以外でも工夫が見られるようになりました。さらには分奏の回数が増えて各パート間での交流も増えました。互いに何を吹いているかを確認する機会が増えることによって演奏する曲に対する理解も深まりました。

これからの活動も演奏を聴いていただくみなさんにもっと音楽を好きになってもらえるように活動するため、応援よろしく願います。ぜひ演奏会にもお越しください。

### バレエ部

松江高専バレエ部は、現在マネージャー2人、選手25人の合計27人で活動しています。

近年のバレエ部の成績は春に開催されている高専インカレで今年5連覇を達成しました。また、去年の天皇杯では高校生チームや大学生チーム、また社会人チームを破り2位になることができました。この結果より中国ブロック大会にコマを進めることができたのですが、大学生のレベルに手も足も出ずに1回戦で負けてしまいました。この他にも島根県内で開催されている社会人の大会では新体制になってから1度も負けていません。全国高専大会では、2014年と2015年は優勝し2016年には3連覇がかかっていたのですが3位という悔しい結果となってしまい3連覇を達成すること



ができずとも残念でした。

高校の大会である県総体では2013年から順位を上げることができず3位のままです。冬に開催されている選手権では2015年に決勝の舞台にコマを進めることができました。決勝の舞台での経験は一人一人のパワーアップにもつながり、また自分達に何が足りないのかを明確に気づかされたのでとても良い経験になりました。県総体では決勝の舞台に立てていません。また選手権でも1回しか立てていないので日々の練習に励み松江高専が常に決勝で戦えるようなチームになれるよう頑張ります。

現在のバレエ部の練習ではゲームをたくさんしています。これによってチームのレベルが上がり、より質の高いバレエを行うことができるようになりました。バレエ部は常に謙虚であり、礼儀正しい行動をするというのを当たり前としています。スポーツマンらしい行動や生活態度を今まで以上にしていけるように頑張っていきたいと思います。

今年の中国高専大会も無事優勝することができました。今年は去年のリベンジをしなければいけません。挑戦者となり、全国高専大会で優勝できるようにこれからの練習に励んでいきます。そして、OBの方々や学校関係者の方々、また地域の方々に応援していただけるようにチーム一丸となって頑張っていきます。今後ともご支援、ご声援宜しくお願いします。

(キャプテン 田部 瑞樹)

## 編集後記

本会報も、前任の多久和会長の際に創刊されてから、今回第7号をお届けすることとなりました。本校は既に創立50周年を過ぎ、次の50年に向けて、平山新校長を中心に精力的に運営されております。

おかげさまで本同窓会も来年には発足50年を迎え、再来年には50周年の記念行事を開催予定です。既に理事会では、これに向けての会議を重ねております。これもひとえに会員の皆様のご理解・ご協力の賜物であり、厚くお礼申し上げます。また、50周年記念事業の際には、ご参加・ご協力頂きますようお願い致します。

さて、誠に残念なことです。会員数は8,000名近くとなり、また卒業から年月が経過しているため、全ての会員の皆様にご連絡できない状況です。そこで、本年より理事会の分科会として名簿に関する委員会を再構築して、基礎資料の作成を行う予定です。また、その際にはご協力をお願い致します。